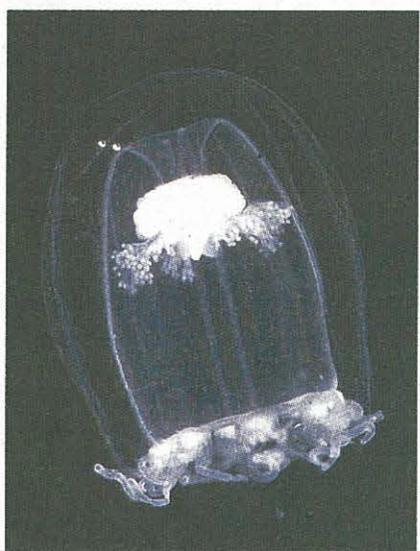


バイオンケリカークラゲ



久保田 信

7



田辺湾産で新種記載したバイオンケリカークラゲ

田辺湾で世界中から知られていないクラゲが発見されることがある。2005年に筆者と、当時、瀬戸臨海実験所大学院生の河村真理子さんによって新種記載されたバイオンケリカークラゲである。傘の高さは4ミ程度で直径は3・5ミの希少種。200

1年10月下旬に1年間かけた労力のかかる採集方法でただ1個体だけ捕まえた。それ以降は日本のどこからも捕れていない。この種は、世界に目を広げてもパプアニューギニア1カ所で記録されただけで、その個体は田辺湾産よりも少し大きく、形も複雑になっている。和名は、近ごろ亡くなられたベルギー生まれのクラゲ系統分類学第一人者のバイオン先生と19世紀の解剖学者のケリカーの名前を合わせた。

田辺湾産の成熟雌は、傘の縁に触手の束が八つある。それぞれの触手の内側には、1個ずつ丸い眼点がある。これ

で光の強弱を感知している。体の中央にある口柄(こうへい)の先端にある口唇は十字形で、ここから餌を取り込む。口唇より少し上の所にも4本の触手が生えている。口触手は短い。2分岐を6回繰り返すので全体として樹状になっている。より効率的に餌を確保できる仕組みで、それぞれの触手の先端にたくさんの刺胞を装填(そうてん)している。これで獲物をのみ込む前、確実に射止めてまったく動けなくする。

体の中央にある口柄の上側は胃腔(いこう)だ。その外側にはU字形の生殖巣が4個形成されていて、たくさんの丸い卵が見える。胃腔からは餌をどろどろにとかしたものを体全体に送る4本の放射管が傘の縁へと走る。

このクラゲのポリプ(若い体)はどこにいて、どのような形なのかは不明なままである。生活史の未知なクラゲはまだ多い。

(京都大学准教授)